

## 平国大ボクシング部・木庭監督に聞く／BOX

2016.5.11 23:41

関東大学ボクシング2部リーグに所属する平成国際大学。「恐れず・驕らず・侮らず」を部訓に掲げ、今回で第69回目となる関東大学ボクシングリーグ戦の中では新興勢力といえる。18年前に創部し、7部リーグからスタートして一気に2部リーグまで昇格した。同部を指揮する木庭浩介監督から、5月14日(土)に開幕する第69回関東大学ボクシングリーグ戦について話を聞いた。

### ——今年の目標とライバル校は

木庭浩介監督 「2年連続2部リーグ準優勝で、2部リーグでの優勝はまだない。優勝が目標であり、最大のライバル校は中大だ。7人対抗中、3ポイントは読めるが、あと1ポイントがきわどいところだ」

### ——平国大ボクシング部が7部リーグから2部リーグに上がるまでの道のりについて

「平国大は学校法人佐藤栄学園(さとえがくえん)グループに属し、同じグループに高校ボクシングの強豪、花咲徳栄高等学校がある。花咲徳栄の高校チャンピオンクラスがボクシング強豪大学に進学しているため、初代理事長からの提案により平国大にボクシング部が創部された。花咲徳栄のOBには元世界王者の内山高志などがある」

「7部リーグから4部リーグまでは毎年優勝し、入替戦で上位リーグ最下位校に勝利し昇格してきたが、3部リーグで3、4年ほど足踏みをしてしまった。というのも、当時の3部リーグは専大・川内将嗣(元全日本王者・北京五輪代表)や早大・大久保賢児(元全日本王者)など、他校にチャンピオンクラスが所属しており、なかなか優勝できなかった。当時のメンバーであれば1部リーグでも戦える戦力がそろっていたが、トーナメント制の3部では、初戦でチャンピオンクラスに当たってしまうと、全くポイントが稼げなかった。3部で苦戦している間に、1部で戦える部員が卒業してしまい、タイミングが悪かった」

### ——チームのキーマンと警戒する対戦選手は

「主将のライト級・宇津木秀(花咲徳栄)と昨年の2部リーグ戦で全勝した、フライ級・堤聖也(九州学院)、バンタム級・矢代博斗(花咲徳栄)。今年は各階級で全勝を目指す。後楽園ホールで開催されるリーグ戦は雰囲気など独特なものがあり、また、ノーヘッドギアーのため何が起こるかわからない。そのため、各大学の全選手を警戒している」

### ——練習メニューや部員の日常生活は

「朝6時から1時間程度、大学周辺をロードワーク。夕方の練習は花咲徳栄高校の道場で2時間から3時間程度。道場にはリング2つ、サンドバック15本と施設が充実しており、ボクシング道場にはサウナ室完備、ドアを開ければ隣接している温水プールもある。女子部員が多いのが特徴で、高校生、大学生含め一緒に練習を行い、交流は盛んだ」

「指導体制としては、監督である私が普段は指導し、三枝勇介(花咲徳栄)、東江勇太(首里東)、青木努(諫早)の3名が支援コーチということで協力してくれている。部員は練習が終われば先輩、後輩関係なく仲が良く、道場の掃除を高校生から大学生、全員で行う。道場のトイレ掃除はリーグ戦のレギュラー組が行うようにしている。時には練習後に、近くのスーパー銭湯に部員で寄るほどの仲だ」

「主将と地方出身の部員は合宿所にて共同生活を送っている。食事は監督である私の妻が、例えて言うならば、相撲部屋の女将さんのような感じで部員と交流し、食事の面倒を中心にしている。かつては、部員がバラバラに外食等して

いたが、部員には費用の負担が多く、また、栄養バランスが偏ることから妻が面倒を見るようになった。『今日の食事は何?』と部員は食事を楽しみにしており、私の自宅まで部員が食事を受け取りに来たり、食材を届けに来たりなど、部員とは日常生活でのコミュニケーションも多い。また、試合で勝利したときなどは、日頃、減量などの体重調整をしていることもあり、ご褒美というわけではないが、好きなステーキや焼き肉などの外食にも連れて行ったりしている」

——高校生のスカウト体制について

「ボクシングが好きで、強くなりたいと考えている学生が集まっている傾向があり、花咲徳栄と関東・九州地域が多い」

——学生時代にボクシングに取り組む学生に対して

「一に学業、二にボクシング、三に仲間作り、四に4年で卒業し、人生のチャンピオンを目指してもらいたい」

「社会に出たら、人とのコミュニケーションも大事である。二十歳を過ぎた部員が望むのであれば、試合前後でなければアルコールを飲んでもよい。あれもこれもダメだということはない。社会勉強として人脈を増やすなどの交流やイベントにも参加させている」

——監督にとっての関東大学ボクシングリーグ戦とは

「個人戦では味わえない雰囲気と興奮の渦の中で勝敗を競い合う戦いは、部員が団結し勝利を目指せる唯一の大イベントだ。お互いを励まし、人として成長できる場で、ボクシングという個人競技でありながら、皆でハイタッチするような普段のボクシングとは違う体験を学生にも味わってもらいたい」


平成国際大学ボクシング部

創部18年目。歴代全日本チャンピオンは男子・千葉正哉、女子・矢代由希、新本亜也、藤満霞、横田佳菜子、釘宮智子、藤野ちなせ、林美涼

木庭浩介監督

1960年4月16日生まれ、熊本県出身。中学、高校にて柔道日本一。木庭浩一・九州学院ボクシング部監督は兄。九州学院と日大ではボクシング部主将を務める。花咲徳栄高校監督兼任(33年)平成国際大学監督(18年)教え子には、内山高志(プロ元世界王者)、鳥海純(プロ元OPBF東洋太平洋王者)、矢代義光(プロ元日本王者)、カズ有沢などがいる。

---

 Copyright (C) 2016 SANKEI DIGITAL INC. All rights reserved.